

産業建設委員会記録

令和7年12月24日(水)

13時30分～14時51分

全員協議会室

【委員】村木委員長、西田一平副委員長、
今田委員、村木委員、大谷委員、川上委員、小川委員、笹田委員

【議長・委員外議員】

【事務局】小寺書記

議題

- 1 取組課題の進め方について（委員間で協議）
 - (1) 浜田漁港・商港の活性化
 - (2) 中山間地域の再生
 - (3) 行政視察
- 2 その他
 - ・【要望書】主要地方道浜田美都線全線2車線化の促進方についての要望（委員会に配付）
 - (1) 自由討議

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 30 分 開議]

○村木委員長

出席委員は7名で定足数に達しているため、産業建設委員会を開会する。
レジュメに沿って進める。

1 取組課題の進め方について（委員間で協議）

- (1) 浜田漁港・商港の活性化
- (2) 中山間地域の再生
- (3) 行政視察

○村木委員長

本日は取組課題の調査方法を確認していきたい。どのような調査を行うのか、意見聴取や先進地視察の方針も含めて、各班から報告をお願いします。

まず、浜田漁港・商港の活性化について、西田副委員長よりお願いします。

○西田一平副委員長

浜田市の浜田港の未来を拓くというところで、産業構造の抜本的転換、浜田商港の多機能化と安全保障の強化というところで、取組課題としている。懸案事項であった九州先進地視察というところで、4か所ある。一つ目は、漁港再生の長崎県松浦市である。株式会社三陽の工場があり、アジフライの聖地としてブランド化されている。二つ目は、低未利用地活用養殖というところで、同じく長崎県の南島原市である。三つ目、商港・安全保障・防災ということで、こちらも同じく長崎県の佐世保港である。四つ目が鹿児島県阿久根市及び枕崎市である。こちらが一艘びきの漁業者を導入しているというところで、浜田でも検討されるかもしれない一艘びきである。視察ルートの案も出している。

○村木委員長

次に、中山間地域の再生について、今田委員からお願いします。

○今田委員

地域再生に向けた農地、空き家利活用と定住支援の検討ということで、耕作放棄地、空き家対策、多世代共生社会の実現に向けて、調査事項を上げている。地域課題の解決と持続可能な地域づくりのため、以下の6項目を軸に調査検討を進める。①現状把握として、耕作放棄地、遊休農地、空き家の分布と発生要因など、管理状況の可視化。②モデル検討として、農地と住宅をセットで提供、運用する仕組みの構築。③生活環境整備として、子育て世代が重視する教育、保育、医療、交通インフラの現状分析と課題抽出。④定住支援策として、若者、移住者の就農、生活を支える包括的支援の策定。⑤公的施策の活用として、農地中間管理機構、空き家活用支援、子育て世代包括支援センターなどの国、県事業の制度の調査。⑥産官学連携として、地域団体、企業、大学などとの協働による多角的な視点を持った再生プロジェクトの創出を考え

ている。

視察先候補及び事例概要だが、九州方面では耕作放棄地、遊休農地の再生活用として熊本県阿蘇市や福岡県うきは市などがある。住まいプラス農業による移住定住促進では、雲南市、岡山県真庭市、兵庫県がある。農福連携共生社会の実現として熊本の山都町などがある。

方向性として「農・住・福」のパッケージ化、農地と空き家を個別に考えるのではなく、移住者の生活や福祉の視点を組み込んだ一体的な提案を目指す。そして、ソフト支援の充実として、ハード整備だけではなく、地域コンシェルジュや相談窓口による暮らしの伴走支援などを目指す。出口戦略の確保として、6次産業化や企業連携による持続可能な経済循環を生み出す仕組みを創出できればと思っている。

○村木委員長

2班から協議した内容の報告があった。それぞれの班において重点分野や課題の取組のやり方、さらには将来的な方向性、まだ確定ではないが、こういった方向で進めていくというところまで提示があった。暫時休憩する。

[13 時 36 分 休憩]

[14 時 04 分 再開]

○村木委員長

委員会を再開する。

各班長から説明があった。目的達成のための調査方法を確認したいと思うが、どのような調査方法があるか。

○今田委員

まず、執行部とのアリングによる課題抽出が1点。2点目が現地調査である。3番目が情報収集、資料収集を行って、4番目が視察になると思う。

○村木委員長

執行部との課題のすり合わせ、どの機関にどう聞くべきかというようなところ、それと関係機関へのヒアリング、さらには今後、当事者との意見交換なども必要かと思う。現地調査、そして資料収集、先進的な取組をしている他団体への視察というところがあったが、ほかにあるだろうか。

(「なし」という声あり)

調査方法としては、先ほどのおおむね4点とその他を入れて5点で、目的達成のために調査をしていきたいと思う。次に、それぞれの方向性なり検討事項が示されたが、この内容について当委員会で確認すべきことがあれば願います。

浜田漁港・商港の活性化について、意見があれば願います。

○笹田委員

大きい項目の2番の「浜田商港の多機能化と安全保障の強化」とあるが、「保障」を抜いて「安全の強化」としてはどうかと思う。この項目のところ全てである。そう

すると、災害時などの港活用の強化に取り組むべきだということにつながる。

○村木委員長

笹田委員から「安全保障の強化」のところ、「保障」を取ることによって災害関係を強化していくという意見が出た。「防災・安全保障の拠点」とあるが、これも「防災・安全の拠点」ということにし、合同訓練というのも、災害における海上保安庁と自衛隊との合同訓練というような災害への対応が主な内容だという話でよろしいか。

○小川委員

「保障」を取ればニュアンスも大きく変わってくる。それが付いているときの「合同訓練」と表現されると、どうしても軍事訓練をイメージしてしまう。市民に誤解を与えないような表現にすべきと思う。例えば「合同訓練」の前に「災害時の合同訓練」というような形で、できるだけ市民から見て疑問を持たれないような形のテーマ設定が分かりやすいと思う。

○川上委員

視察先の3番目「商港・安全保障・防災」と書いてあるので、これも直す。

○村木委員長

はい。「保障」を取るということで、この本文全体から「安全保障」を「安全」に変えるということによろしいか。

(「はい」という声あり)

次に、中山間地域の再生についての取組、意見などについて、各委員の中で質問があればお願いします。

○川上委員

項目の3番目の「生活環境整備」という部分で、当委員会が所管する部分と考えれば「交通インフラの現状分析と課題抽出」だけで良いと思う。

○村木委員長

3番の生活環境整備で「子育て世代が」というところがあるが、「交通インフラの現状分析と課題抽出」に特化した調査研究を行うという話があったが、いかがか。

(「はい」という声あり)

その他、中山間地域の再生については良いだろうか。

(「なし」という声あり)

以上のところを修正し、調査の柱にしていきたい。

続いて、取組課題のスケジュールについて、私から説明する。

取組課題の今後の活動計画を示した。上段が定例会議ということで委員会も入っているが、それぞれのタイミングで会議があるかを入れている。執行部の予算に関する動きも入れている。この1月、2月においては現状把握、3月定例会議において事実確認や課題整理、4月が調査研究、5月が政策討論会の準備というので、6月定例会議のときに中間報告ということで政策討論会を提案したいと考えている。7月、8月にはその政策討論会で出た意見をさらに追加調査が必要かどうか、関係者の意見

聴取をする必要があるかどうかもあるが、こういった期間を設けて、9月定例会議では政策提言または条例案検討ということでしていきたいと思う。

できれば3月と9月に委員会代表質問をするのもありかと思っている。10月、11月に関係者のヒアリングをして、最終的に11月に政策提言と条例案の作成をして、12月定例会議で政策討論会を開いて、議会としての提言なのか条例なのかということで進めたいと思う。6月、12月にそれぞれ政策討論会を開いてもらえるような資料づくり、考え方、方針を決めていきたいが、いかがだろうか。

過去に政策討論会があったのが令和元年度で、それ以降はやっていないと聞いているので、やれば久しぶりではある。

○笹田委員

ゴールをどこに持っていくかもあると思うが、なかなか6月に材料がまとまっていない中で中間報告してもどうかと思うので、進み具合によって9月なのか12月なのか、あるいは2年かけてしっかりやるのかということもある。案としては良いと思うが、進み具合によっては臨機応変にやるべきと思う。

○村木委員長

1年というところで、中間報告を入れたいということで、少し無理な部分もあったかもしれないが、目標ということで、委員会を重ねながら調整をしていきたい。

私も政策討論会をやっていなくて、イメージが湧かないところも正直ある。

○川上委員

たぶん6月頃は難しいと思いつつ、行程を詰めていく気持ちでやっていけば、これで良いのではないかと思う。あとは、最後の詰めをどこに持ってくるか。8月、9月頃に来れば良いが、1月、2月頃に最終的に来ると、執行部として政策に反映するのは難しいかもしれない。もう少し考える必要があるが、今後ということで良いと思う。

○村木委員長

そのため、サマーレビューと予算編成のタイミングを入れた。確かに1月頃になると、次の年の反映は難しい。一応目標ということで、こういった形で進めさせてもらおうと思うがよろしいか。

○小川委員

委員会代表質問について、1月から3月にこういう方向のテーマでやるということ報告するような代表質問なのか。それとも、それまでに調査活動をした部分での成果をまとめてそこでやるというイメージか。ここで代表質問をやる方向なのか、必要があればやるのか。後半の9月の代表質問は、一定程度活動した成果として、今後、政策提言するのか条例案にするのか、そういう形でまとめたいという活動の積み上げがあつてのことだから9月は分かるが、3月段階でやるというのはどういう趣旨か。

○村木委員長

1月、2月である程度の事実確認ができたときに、実際どうなのかとか、どう考えているかというのを聞くための代表質問と思っており、絶対ではない。1月末で出てきた課題や考え方、現実はどうかというのを確認するための代表質問ということで入

れた。もちろん9月頃じゃないと深掘りはできないのかと思っていた。これも絶対ではない。選択肢の一つである。

政策討論会をいつ出せるかということで、令和元年は8月にやっていた。三つの委員会が政策討論会に提案をし、三つのうち二つが審議未了で差戻しというか、もう少し検討してということで、福祉環境委員会分のみが、議会としての意見ということで、一つが残ったと聞いている。

○笹田委員

政策討論会は雰囲気良くない。「なぜ我々がやったことを言われなければいけないのだ」みたいな雰囲気があった。政策討論会は議長が仕切るので、委員長がまずしっかり説明して問い掛ける形でやらないと、しんどいと思っている。ちゃんとまとめていく作業が必要かと思っているので、やり方次第だと思う。

○川上委員

3月の委員会代表質問も課題のブラッシュアップである。ブラッシュアップして初めて出てくるもので、そうすれば皆の考えも分かるし、委員全体が同じ方向を向いていくのではないかと思う。

○村木委員長

そういった形で積み上げながら、アドバイスを受けながら、全22人の議員が一つになるような形で進めていきたい。その中の一つの手法として、委員会代表質問もしながら、中間報告も絶対したいと思っている。二つのテーマがあるので、二つのテーマで同じようにするのかということもある。

○大谷委員

3月に委員会代表質問をするためには、その前段階の委員会の中でこういう課題があるからこれを質問しようということになると思うので、段階を経て、ここにあることを実際にやっという趣旨ということで理解したいと思うが、よろしいか。

○村木委員長

はい。もちろん委員会で諮りながら進めていきたいなと思っている。結構タイトだなとは思っているので、後ろにずれるということも想定している。

○笹田委員

最初の調査項目の中で、執行部との意見交換があった。そこで質問し過ぎると駄目である。あそこで質問するのであれば委員会質問は要らない。あくまでも課題を抽出するのが作業だと思う。情報収集して、こちらで集めた課題を基に委員会代表質問するべきだと思う。勘違いしないように、そこは共通認識として委員全員が持つべきであると思う。

○村木委員長

進め方、スケジュールはこの形で行いたい。

(3) 行政視察

○村木委員長

相手があることなので、先に進めていきたいと思っている。各班から視察先を出してもらった。今回は九州地方、福岡県、長崎県への視察ということで考えていきたいが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

案として正副委員長で考えた。初日は福岡県のうきは市に行き、耕作放棄地の関係や移住者への農地提供、若手就農者への取組を視察し、翌日が長崎県南島原市での民間主導によるクルマエビの養殖、旧産業用地を生かした陸上養殖、昼から佐世保に行き、災害を想定した岸壁の運用といった商港の視察。31日が株式会社三陽の工場見学というところで、こういう形でどうかと思うが、委員から意見をお願いします。

○笹田委員

海関係の視察が多い気がする。中山間は近いところの視察の案もあった。雲南市、邑南町、真庭市もあるので、日帰りで行けるようなところはまた別で行き、しっかり勉強できるような形でやるのであれば、この行程でも問題はないと思う。

○村木委員長

確かに中山間関係は近くがあったので、それは日帰りなども今後検討していきたい。このスケジュールの中でも4月早々に視察の計画も入れてはいるので、年度ごとのバランスは見ていきたいと思っている。

○川上委員

中山間地域については、近くに十分見るところがあるので、そこで本当の現状をじっくり見させてもらうのがより一層良い。1回だけでなく2回とか、また検討すればと思う。

○村木委員長

両班から意見をもらった。中山間においては近くや日帰りも可能ということで、今回は九州方面ということで行きたいと思うが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

そうすると、この日程で視察が可能かどうか、事務局で調整をお願いします。

○笹田委員

漁港・商港の活性化の調査事項で、先ほど「安全の強化」だけになったが、ちょっと文言が分かりにくい。何の安全か分からないので、その安全の前に「生活」を入れてもらって、「生活安全の強化」としてはどうかと思う。あくまでも生活する上での強化、そういった意味で全部包括されると思う。

○村木委員長

各委員、よろしいか。

(「はい」という声あり)

先ほどあったヒアリングである。行政とのヒアリングをいつのタイミングでやるか。1月中には執行部とのすり合わせもする必要がある。場合によっては、浜田港振興会や関係部署にも話を伺わないと、それこそ3月なり6月の定例会議にも間に合わ

ないと思うが、この辺でまず、漁港・商港班で1月中に何らかのヒアリングというイメージがあるか。

○笹田委員

我々の計画をまず執行部に見せて、課題を抽出するに当たってどこと協議して良いかということを知る場を最初に設けたい。あらかじめ投げ掛けておくと、向こうが抽出してくれると思うので、そんなに難しい作業じゃないと思う。1月の早めにもできるのではないかと思う。聞きに行く相手をまず執行部から聞きたい。

○村木委員長

中山間班は何かあるだろうか。

○川上委員

確かにこのテーマを投げれば向こうは探してくれる。プラスして、自分が求めているテーマにそぐわない部分があれば、もしくは深掘りしたい部分があれば追加する形にしてもらおうと1年半ばまでにはヒアリングできる可能性がある。執行部に投げるのは早くして、できれば年明けには答えもらえるとうれしい。

○村木委員長

漁港の関係も中山間の関係も、ほぼ同時にスタートしていきたいと思っているので、こちらの今の計画を執行部に投げて、どことの協議、話合いをすべきかを確認していきたい。それが市なのか、県なのか、国なのかというところである。

それでは、中旬だが、日程を3候補決めておこう。それで執行部とも話をしていきたい。

○小寺書記

委員会を開催して担当課に来てもらい、関係部署の確認をするということか。

○川上委員

まずは執行部に投げて、1月の前半、なるべく早めに答えをもらう。それを確認して、次に1月中頃にヒアリングするというような段取りかと思う。

○小寺書記

例えば班で担当課に確認をしてもらって、出てきたものを委員会の中で協議する形のイメージか。

○笹田委員

ちゃんとした委員会でやるのが良い。片方だけだと分からないので、両方聞いておきたい。委員会を中旬に開いて、開催日を決めたほうが執行部も調整しやすいと思う。例えばどこの週にするのか決めといて、その中で執行部に決めてもらって開催するという形が良いと思う。我々の課題だけじゃなくて、中山間の課題もしっかり聞きたいし、全体として取り組むべきだと思うので、委員会を開催すべきだと思う。

○小寺書記

委員会開催、分かった。そこに向けていわゆる所管事務調査、定例会議の初日における所管事務調査みたいな形で、こういうものを出してほしいということをこの委員会で決めて、要求をして来てもらって話してもらいたいイメージか。

○村木委員長

そのようにお願いします。

では、19日は月曜日、いかがだろうか。

(以下、日程調整)

それでは、21日の午後、22日の午前または午後ということで、時間は午後なら1時半から、午前は10時からでお願いします。この日程で進めたいと思うので、仮でよろしくをお願いします。

2 その他

- ・【要望書】主要地方道浜田美都線全線2車線化の促進方についての要望
(委員会に配付)

○村木委員長

当委員会へ要望書の配付が1件あった。浜田市議会請願陳情等取扱要綱に基づき、要望書はその写しを関係委員会に配付することとなっているため、内容を確認してほしい。当委員会では対応が必要な案件かどうかについては、また後ほど確認する。主要地方道浜田美都線全線2車線化の促進方についての要望である。

続いて、自由討議についてである。前回聞いたとおり、毎回行いたいと思っているが、今回の委員会の中で自由討議を行うべき案件があるだろうか。

○笹田委員

急に自由討議と言ってもなかなかできないので、せっかくLINE WORKSもあるので、そこで委員会の1週間前でも3日前でもこういう自由討議をしたいということをお願いいただければ準備ができる。一つ提案としては、ゆうひパーク浜田の件で各委員の意見が違った。委員会内で皆の意見を聞くのは自由討議の価値があると思う。

○村木委員長

私も数日前にLINE WORKSで提案を募るのが良いと思っていた。次回、早速提案があったが、次回、道の駅ゆうひパーク浜田についての自由討議をやるということではよろしいか。

○川上委員

それまでに執行部が固めてくるかもしれない。

○村木委員長

そのタイミングもある。

まずは自由討議の流れとして、前もって各委員に募集をする。今回はなくて、次回に道の駅ゆうひパーク浜田の件をやる。その前に説明があるかもしれないが、よろしくをお願いします。

○笹田委員

各委員で決めれば良いと思う。「自由討議をやる前は委員会で3日前にLINE WORKSでお願いします」とか、そういうルールを決めておけば準備ができると思う。

○村木委員長

今提案のあったとおり、3日前に自由討議のテーマについて出してもらおうということで、内部ルールとしてもよろしいか。

○小川委員

委員会のLINEWORKSでやるという話があって、この産業建設委員会のグループはあるのか。

(「はい」という声あり)

○笹田委員

決まったのであれば、3日前に委員長から「自由討議の案件が何かあるか」と聞いてもらえれば、各委員はそこで意見が出ると思うので、その作業をお願いしたい。

○村木委員長

はい。決まったということで、私から毎回アクションを起こす。

その他あるか。

○西田一平副委員長

前回の一般質問を受けて、産業建設委員会で可能であれば所管事務調査をしたいと思うものが2点ある。私が発言した美又温泉の今後のこと、外湯も含めて、私は食のことをメインで言ったが、今後の計画のところ。あと笹田委員の一艘びきの件に関しては、すごく可能性があると思って、何人かの関係者には少し話を聞いた。一般質問は個人の発言であるが、それを委員会のテーブルに上げて、さらには全議員のテーブルに上げれば、執行部側も調べなければいけないとなるかと思ったので、その2件を所管事務調査で出したいなと思っているが、いかがだろうか。

○川上委員

美又温泉の外湯の件だが、どんな感じの所管事務調査を出したいのか。

○西田一平副委員長

食の施設がコンテナ二つということなので、今後の可能性や、サブコアエリア以外のところである。

○川上委員

分かった。外湯の環境として地域も含めての話であると分かった。

一言言っておくが、先日、新たな募集を始めた。

○村木委員長

西田副委員長から、一般質問のテーマを当委員会で取り上げるのは良いことだと思っている。今回、美又温泉の外湯の関係と一艘びきについて、所管事務調査をしたいという旨があったが、各委員の総意でやりたいと思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

所管事務調査をやりと決めたら、執行部に通知して、次の委員会で聞くということになるか。

○笹田委員

所管事務調査はいつでもできる。ただし、執行部が資料をそろえるのに時間が必

要で、資料が用意できてからという形になると思う。明確にこういう資料だとはっきり伝えて、「一艘びきの件について」だけだと意味が分からない。例えば「一艘びきの導入の可能性について」とか、導入するにはどういった手続が要するのか、どういうハードルがあるのか、明確にして伝える必要がある。

○西田一平副委員長

前回、所管事務調査で各委員が希望したフォーマットを作って出すということか。

○笹田委員

丁寧でなおさら良いと思う。取組課題も普通の所管事務調査も差はないと思っている。先ほど副委員長が言われたように、明確に書いて出すのが筋かと思う。

○西田一平副委員長

では作成する。LINE WORKSで各委員に見てもらい、追記とか修正とかあればもらいたい。

○村木委員長

では、所管事務調査ということで、美又温泉地域の検討と一艘びきの件について、副委員長がまとめたものを再度各委員にお諮りをして、執行部へ提出しようと思う。よろしいか。

(「はい」という声あり)

○村木委員長

その他、あるか。

(「なし」という声あり)

私から1件。先ほど要望書が出た。長年の課題というところもあり、3月定例会議の所管事務調査のときに、進捗状況の確認が必要ではないか。配付するだけではなく、状況を確認すべきと思ったが、いかがか。

○笹田委員

当然すべきだと思う。それ以外にも、今回、請願がたくさん出て、採択したものは全部一度確認する必要がある。それを併せてしっかりやるべきだと思う。終わった分は良いので、そういったことも積み重ねていくべきと思っている。

○大谷委員

要望書の件で、次に所管事務調査をするということについては賛成である。その中で20年近くなかなかできていないという状況の中で、進捗度合いが見えるような資料にしていただけたらと思う。

○村木委員長

もともと大谷委員が取組課題のときにも、こういった中山間の道路のことを言われていたこともある。よろしいか。

(「なし」という声あり)

先ほどのフォーマットで作って、3月定例会議の所管事務調査で取り上げるということではよろしいか。

(「はい」という声あり)

その他、よろしいか。

○小寺書記

所管事務調査のことで補足である。笹田委員が言われたように、取組課題も所管事務調査の一環としてやっているが、執行部に確認するだけではなくて、現地を確認したり、関係者に意見を聞いたりすることも所管事務調査の一環にはなるので、そういった方法も、出てきたものを見た段階で検討してほしい。

○村木委員長

最後に、次回の委員会は1月21日の午後、または22日の午前か午後というところで、3日程あるので決まり次第連絡をしたい。定例で決まっている委員会としては、令和8年1月27日である。

あと、LINE WORKSをしっかりと使って、視察日程が決まれば質問事項の精査に入るので、定期的なチェックを改めてよろしくお願いします。

以上で産業建設委員会を終わる。

[14 時 51 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員会委員長 村 木 勝 也